

1. 科目名（単位数）	公民科指導法Ⅰ（2単位）	3. 科目番号	SSMP3442
2. 授業担当教員	荻原 邦昭		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	公民科の目標は「社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する」である。本科目では、学習指導要領で示される指導内容についての解説にとどまらず、授業実践事例について学ぶことで、受講生の公民科指導能力の成長を理論と実践の両面から支援することを目指す。 さらに、「公共的な空間を作る主体」「他者と協働する倫理的主体」「持続可能な社会づくりの主体」として社会に参画する力を育む中核的な機能を果たすことが期待される今後の公民科のあり方（主権者教育など）についても取り上げる。なお公民科指導法Ⅰでは、公民科科目のうち、「公共」に重点を置いて、その内容および指導法について取り上げるものとする。		
8. 学習目標	1. 学習指導要領改訂の経緯、趣旨、要点及び公民科科目「公共」の基本的性格、目標、内容について理解し、説明することができる。 2. 公共的な空間における基本的原理（民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務等）に関わる事象について理解し、説明することができる。 3. 公民科科目「公共」の教育内容となる現代の諸課題について他者との議論を通して理解を深め考察することができる。 4. 「公共」に関する指導計画、単元指導案、学習指導案を作成することで授業づくりについて学び、公民科の実践課題について考えることができる。		
9. アサシメント（宿題）及びレポート課題	【指導案と模擬授業】 作成された指導案と模擬授業（授業中に様式を指定する） 【期末レポートの課題】 □「現代社会の諸課題を具体的に一つ取り上げ、幸福、正義、公正に着目して考察せよ」 ※1, 000字～1, 200字程度で述べる。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 文部科学省『高等学校学習指導要領解説公民編』東京書籍（以下、シラバス内ではテキストと呼称する。） 【参考書】 1. 日本社会科教育学会編『社会科教育事典』ぎょうせい、2012。 2. 日本公民教育学会編『公民科教育事典』第一学習社、2009。 3. 文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房。 【参考資料】 高等学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）		
11. 成績評価の基準と評定の方法	○成績評価の基準 1. 学習指導要領改訂の経緯、趣旨、要点及び公民科科目「公共」の基本的性格、目標、内容について理解し、説明することができる。 2. 公共的な空間における基本的原理（民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務等）に関わる事象について理解し、説明することができる。 3. 公民科科目「公共」の教育内容となる現代の諸課題について他者との議論を通して理解を深め考察することができる。 4. 「公共」に関する指導計画、単元指導案、学習指導案を作成することで授業づくりについて学び、公民科の実践課題について考えることができる。 ○評定の方法 成績評価の基準 1～4 についての達成度を以下の方法により評価する。 - 各受講生の参加意欲・態度（課題の提出状況も含む）について総合的に評価する。（30%） - 各受講生の授業での発言・共同作業（模擬授業やディスカッションなど）の実態等から総合的に評価する。（30%） - 各受講生の知識理解や思考の深まりについて、作成した指導案・模擬授業の指導内容・レポートから評価する。（40%）		
12. 受講生へのメッセージ	「公共」は「現代社会」に代わって新設された科目である。この科目は自立した主体とは、国家や社会など公共的空間を作る主体であることを学ぶとともに、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を、また公共的な空間における基本的原理を理解すること、現実社会の諸課題を政治的主体、経済的主体、法的主体として自ら見いだすとともに、話し合いなどを行い考察、構想する学習を行う。そしてさらに持続可能な社会づくりに向けて、諸課題の解決に向けて構想する力、構想したことの妥当性などを議論する力が求められている。そこで本科目では、「公共」の内容はもちろん、諸課題の探究方法や社会参画の在り方などを学ぶこととする。このため、受講者は次の事柄を遵守することを望む。 1. 緊張感と集中力をもって受講する。 2. 質問、発表を積極的に行い、主体的に取り組む。 3. 欠席、遅刻、早退をしない。 4. 勝手な退室、講義と無関係な振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などを慎む。 教員は次のことを実行する。 1. 講義のねらいを明確にし、シラバスに沿って講義する。 2. 声の大きさや話し方など受講者の立場に立って講義する。 3. 討議や発表、模擬授業など受講者が講義に参加できる環境に配慮する。 4. 受講者の質問には誠実に対応する。		
13. オフィスアワー	授業時間内に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			

講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	1)オリエンテーション（シラバス確認） 2)公民科教育の意義を考える 課題：「公民科の歴史」を振り返る。	事前学習	公民科はいつからどのように登場したのか、調べておく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。
第2回	公民科改訂の基本方針・趣旨・要点 課題：公民科改訂の基本方針・趣旨・要点等を中教審答申から始めて理解する。	事前学習	テキスト p p 1～20を読んでおく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。
第3回	公民科各科目の目標と改善の要点 課題：公民科の目標・各科目の内容について理解する。	事前学習	テキスト p p 21～26を読んでおく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。
第4回	「現代社会」「公共」それぞれの科目の性格と科目構成の比較 課題：「現代社会」と「公共」の比較を通して、「公共」の特徴について理解する。	事前学習	テキスト p p 27～34を読んでおく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。
第5回	「公共」の実践事例の検討① 課題：指導要領「公共」A（1）とA（2）の授業事例を検討する。	事前学習	事前に配布された公共の授業事例をよく読んでおく。
		事後学習	授業事例の特徴をまとめる。
第6回	「公共」の実践事例の検討② 課題：指導要領「公共」A（2）とA（3）の授業事例を検討する。	事前学習	事前に配布された公共の授業事例をよく読んでおく。
		事後学習	授業事例の特徴をまとめる。
第7回	「公共」の指導案作り① 課題：模擬授業を構想する。	事前学習	指導案で取り上げる単元を考えておく。
		事後学習	指導案のつくり方を見直し、検討を加える。
第8回	「公共」の指導案作り② 課題：模擬授業を構想する。	事前学習	指導案の構想を行う。
		事後学習	指導の流れを確認する。
第9回	「公共」の模擬授業① 課題：模擬授業を行う＜教材の開発＞ 授業の相互評価	事前学習	模擬授業ができるよう準備する。
		事後学習	模擬授業の良さ、課題を整理する。
第10回	「公共」の模擬授業② 課題：模擬授業を行う＜資料の検討＞ 授業の相互評価	事前学習	模擬授業ができるよう準備する。
		事後学習	模擬授業の良さ、課題を整理する。
第11回	「公共」の模擬授業③ 課題：模擬授業を行う＜ICTの活用＞ 授業の相互評価	事前学習	模擬授業ができるよう準備する
		事後学習	模擬授業の良さ、課題を整理する。
第12回	「公共」の指導① 課題：「主として法に関わる事項」の指導の在り方	事前学習	テキスト p p 50～60を読んでおく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。
第13回	「公共」の指導③ 課題：「主として政治に関わる事項」の指導の在り方	事前学習	テキスト p p 60～65を読んでおく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。
第14回	「公共」の指導③ 課題：「主として経済に関わる事項」の指導の在り方	事前学習	テキスト p p 65～73を読んでおく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。
第15回	「公共」の指導④ 課題：「持続可能な社会づくり」についての意見交換	事前学習	テキスト p p 74～79を読んでおく。
		事後学習	「公共」を通して学んだことを踏まえ、グループで「持続可能な社会づくり」について話し合いを行った結果、相互評価を行う。